

めぐみの糧

「世界を変えたお方の誕生」

湯浅 修

「彼は、名もない寒村に生まれ三十歳になるまで大工の息子として働きそれから三年間喜びのおとずれを人々に伝え

家庭も家も事務所を持つことなく大学にも行かず

資格といつたものなど持つこともなかった。千九百年あまりの歳月は過ぎ去り

彼は今日、人類の中心におられ歴史の流れを導いておられる。

足音高く進軍したすべての軍隊も大海を制覇したすべての海軍も

政治を取りしきつたすべての議会もこれまで君臨したすべての王たちも

このひとりのお方イエス・キリストの生涯ほど地球上を変えることはできなかった。

冒頭の詩には、「世界を変えたお方の誕生」というタイトルがつけられています。人類の歴史上、数多くの「偉人」と呼ばれる人々が登場しては、それぞれ偉業を残しましたが、イエス・キリストほど、私たちの歴史に、人々の生き方に、決定的な影響を及ぼした方はおられないでしょう。

「クリスマス」は、神が、この世に、ひとり子イエス・キリストという「贈り物」をしてくださった日です。今日は、神の賜った「贈り物」について、お話しさせていただきますと思います。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」（マタイ4章4節）

一．贈り物の「性格」

さて、この贈り物は、どのような特徴を持っていたのでしょうか？

① 「命がけの贈り物でした。」

神がお贈り下さった、贈り物の価値は、お金で計ることができません。そこには、キリストの命がかかっています。キリストは、「死ぬために生まれ」、永遠のいのちに至る道を開いてくださいました。

② 「へりくだった」贈り物でした。

「ことばは人となつて、私たちの間に住まれた。」（ヨハネ一章）

昔ローマに、ヘクターという武将がおりました。武器に身を固め、今や戦いに出て行くこととするとき、最後の別れにと、幼い我が子を抱いて、接吻をしようとした。ところが、幼子はいかめしい武器をきた父の姿を見て、恐れ、近づこうとしない。そこで、ヘクターは再度、武器を解き、平服に着替えて子どもを抱いて接吻し、再び、身をよろつて後、戦いに出て行ったのです。キリストも、罪人なる人間を、ご自身に近づかせるために、栄光の姿を脱がれ、人の姿になられたのです。

「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることのできないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。」（ヒリピ二章）

二．贈り物の「中身」

次に、この贈り物の中には、何が入っているのでしょうか？

① それは、「永遠のいのち」です。

「この方に、いのちがあつた。」（ヨハネ一章）

この贈り物の中には、「神のいのち、永遠のいのち」が入っております。

十三世紀のシリアのフレデリックという王様は、生まれてきた赤ちゃんに、最高のベッド、食物、環境を与えましたが、次のような命令を下しました。

「決して、声をかけてはならぬ！」

すると、すべての赤ちゃんは、衰弱して死んでしまった。ここから、大切な教訓を引き出すことができます。すなわち、

「言葉には、いのちがある。語りかけられない魂は、必ず死ぬ！」

イエス・キリストは、人となられた「神のことば（ロゴス）」であり、ロゴスは、「いのちを有することば」です。私たちの心には、神のいのちが、そして、神のことばの語りかけが必要なのです。

人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」（マタイ四章）

② それは、「いのちの光」です。

「このいのち、人の光であった。」（ヨハネ一章）

次に、「あなたの心を照らす光、あなたの人生を導く光」が入っております。

一人の画家が、一枚の絵を描きました。それは、冬の景色を描いた絵です。

雪に覆われ、夕刻の薄暗い丸太作りの家。この家は、夕闇に包まれ、輪郭だけが見えます。何とも寂しい家です。

画家は、筆をとり、パレットの上の黄色の絵の具を含ませると、窓の中に、ランプの暖かい光を描き入れました。すると、その黄色い絵の具は、物寂しかった絵の雰囲気を、見事に、暖かな家へと変化させたのです。

これが、二千年前に、起こった出来事です。暗闇の支配するこの世（界）に、あなたの心、いのちの光なるイエス・キリストがお生まれになるのです。

北海道のある教会が、クリスマスの日に、二十人ばかりの信徒が、病院の前に行き、クリスマス・キャロルを歌っていました。その年もいつものように、病院の前で歌いました。

それから、数ヶ月後、年輩の男性から、その教会の牧師に電話がかかってきました。

「クリスマス・イブの夜、病院前で賛美歌を歌われたのは、あなたの教会ですか？」

牧師は、キャロリングの歌声がうるさいと、苦情を言われることもあり、気兼ねしながら……

「はい、私どもの教会です。」

「実は、私はあの病院に入院しているのですが、同室の方から伝言を頼まれましたので、お伝えしたいと思っております。」

それは、次の様な伝言でした。

その男性と同じ病室に、余命幾ばくもないひとりの老婦人がおりました。彼女には身寄りがなく、見舞いにくる人もない、寂しい境遇の人でした。あのクリスマス・イブの夜、クリスマス・キャロルを耳にした彼女は、目に涙を一杯浮かべながら、言われたそうです。

（裏面に続く）



めぐみバプテスト教会

東京都多摩市永山6-2-5 永井ビル2F

多摩ニュータウン通り
Tel. 042-374-2311
FAX 042-374-2311

木曜日 夜 7:00~8:30 祈り会
日曜日 朝 9:30~10:25 日曜学校
10:45~12:15 礼拝

牧師: 湯浅 修(ゆあさおとし)
メール: mbc0316@ybb.ne.jp
携帯Tel: 080-5053-9206 (湯浅)
ホームページ: 「めぐみバプテスト教会」と検索ください

「ああ、よかった。もうこれで何も思い残すことはないですね。」

その方の心には、救い主イエス・キリストが生まれにいられたことを喜ぶ、ほのかな希望の灯りがともされたのでしよう。

老婦人は、この方に伝言しました。「どうか、あの賛美歌を歌ってくれた教会を捜しだして、私が感謝していたことを伝えていただけませんか？」

やがて、この老婦人は、ひっそりと息を引き取られました。受話器を静かにおいた牧師は、あのクリスマス・イブの日を思い起こしたのです。あの晩は、格別に寒い夜でした。病院の窓からは、首を出す人さえいませんでした。

「誰も聞いていそうにない、こんなところで歌って何になるのだろう。」
そんな思いさえしたほどでした。しかし、あの寒い夜のキョロキョロが、身よりのない寂しい一人の婦人の心に届き、喜びと慰めを与えたのでした。

ある金持ちがたゞさんの絵画を蒐集していましたが、亡くなるまで競売にだされることになりました。当日、名画を求めて多くの人が入札に参加するため集まったのです。

最初に出された絵は、その家のすでに亡くなつていた子どもの肖像画であつたため、だれも入札をすることをしませんでした。その時、この家のしもべがおらずお手をあげたのです。

「私でも、入札してよろしいのでしょうか。ならば、私がぜひ買いたいのですが。」
しもべは主人と、その子ども非常に愛し仕えてきたため、思い出にほしかつたのです。

しもべは最低の値段でそれを落札、人々は大笑いしました。さて、競売人が次にはどんな名作をだすだろうか、と参加者は期待していると、彼はおどろくべきことを告げたのです。

「これをもつて競売は終了いたします。ここに亡くなられた当家のご主人の遺書があります。この遺書の中には、『私の息子の肖像画を買った人に対して、私は他のすべての絵を贈呈します』と書いてあります。」

神の子キリストを、心にお迎えになる方は、神のすべての祝福をお受けになるのです。

「クリスマスと”L”の福音」

クリスマスは、英語の”L”で始まるいくつかの言葉に象徴される出来事だと言われます。

第1は“Lost”で、「失われた者」と訳せる言葉です。道に迷って行先がわからなくなった時、“I am lost.”と言うようですが、直訳すれば”私は失われている”ということになりましょう。私たちは皆、聖書にあるように「羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって」行先を失っていたものです。その「失っていた者を捜して救うために」主は来られたというのが、クリスマスであるわけです。

第2は“Least”ですが、これは「最小の」と訳せる言葉です。主イエスが誕生した地は、名も知れない小さな小さな町ベツレヘムでしたが、「ユダの地ベツレヘム、あなたは……決して一番小さくはない」と言われるに至ったのです。それはキリストの来臨が、一番小さいと言われて卑しめられていた者をも「決して一番小さくはない」存在に高めてくださるという福音を象徴しているように思えるのです。

第3は“Last”です。これは「最後」という意味で使われますが、「最低」とも訳されます。待望の御子、救い主の誕生という史上最大のビッグニュースが、社会的には最低に属するとされていた羊飼いにまず告げられたというのは驚きです。それ以上に「王としてお生まれになった」はずの御子イエスの産み落とされた場が、何とこれ以下はないという臭気ふんぶんたる家畜小屋の汚物にまみれた飼葉おけだったという、このアンバランスはもっと大きな驚きです。

クリスマスになるとよく歌われる聖歌に「うまぶねのごときわが心に 救い主イエスは宿りませり」というのがあります。当時のその地方の家畜小屋は洞窟の中だったらしく、風通しの悪い臭気の立ちこめた不衛生きわまりない環境だったろうといわれます。しかし、その家畜小屋、飼葉おけが、いかに汚れて汚いと言っても、もしかして人間の心ほどではないと言えるかも知れません。でも、あえて鼻持ちならないような臭気に満ちた醜悪ともいえる人間の心にも、いや、そういう心にこそ、救い主は宿ってくださるという。あの時、あの場に、御使いの賛美が響きわたり、神の栄光がその場を照らしたように、私たちの汚れた心をも、輝くものに変えてくださるという、ここにクリスマスのメッセージがあるのです。

以上のような三つの”L”に対して現されたのが、次の三つの”L”です。それは”Love”(愛)、“Light”(光)、“Life”(いのち)なのです。

クリスマスにおいて神の愛が具現化し、それがこの世を照らす光となり、私たちにいのちをもたすことになったのです。その意味で、クリスマスを中心から喜び、そしてこのシーズンに、ここに示されている。

”L”の福音をあなたも知っていただくことをお勧めいたします。

(PBAだより、2007年12月号)

12月の主な予定

12/14(日) 午後2:30～ 女性クリスマス会 (当教会にて)

12/23(日) 午前10:45～ クリスマス礼拝 (当教会にて)

(クリスマス集会は、どれもすべて無料です)

聖書通信講座のごあんない

どなたでも無料で学ぶことのできる聖書通信講座があります。講座は幼児用から大人までのコースです。ご希望の方は、どうぞ、お気軽に当教会まで御連絡下さい。早速、スタートできます。Tel. 042-372-5693
メール. mbc0316@ybb.ne.jp
(疑問・ご質問何でも、お問い合わせ下さい)

あとがきにかえて

「めぐみの糧」第十一号をお読み下り、ありがたうございませす。今号は、「クリスマス」いうテーマを取り上げました。

今年もクリスマスが至る所で祝われますが、悲しいかな、多くは主役不在です。

真のクリスマスは、主役である救い主イエス・キリストを、あなたがご自分の心の中にお迎えになり、キリストが与える永遠のいのちを得られることにあります。

”この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。”

どうぞ、クリスマスには、教会においでくだり、キリストに出会われますよう、心よりお勧めいたします。
(湯浅)